



①「福島を忘れない」「福島と寄り添う」などと言うとき人はしばしば「自分の言っていることは絶対に正しい」とする独善性に陥りがちだ。復興事業は遅れていて、福島農業（特にコメ）は壊滅的で、人口流出が止まらない。こんなイメージだろう。だが開沼博『はじめての福島学』（イースト・プレス、1620円）をひもとけば、目から厚い鱗が落ちるはずである。

①震災後、県外で暮らしている福島県民は何%か（2、12、22%）、②県内産米で放射線量が法定基準を超えているのは何%か（0、8、18

%）、③日本の野菜の法定基準値はキロ当たり100ベクレルだがEUはいくらか（50、250、1250）、④震災後に福島で上昇したのはどれか（出生率、離婚率、中絶率、流産率）。本書はこうした数字を多用して「復興・人口・農業・漁業・林業・2次3次産業・雇用と労働・子ども」について福島の実と直面する課題を説明している。平易な文章と、興味深い展開、そして本質を突いた議論により、400ページの厚さも苦らうとすること『いちえふ』と併せてお勧めしたい。さて設問の答えは①2、②0、③1250、④なし。正答率5割にはいつてほしい。

② 参議院選、統一地方選で共産党の躍進が目立つが、新聞雑誌の分析は質量ともに低調である。しかし、実は自信がない人々。それが集団になるともっと恐ろしい。組織でも家庭でも自己中心的な人ばかり増えていく日本の未来は大丈夫か。自律という面でも、また周辺の困った人への対処法としても参考になる。

④ タイトルから想像したよりもまっとうな本だった。雲田康夫『豆腐バカ』（集英社文庫、626円）はアメリカ駐在員として20年、豆腐を売り込むために悪戦苦闘した森永乳業社員のビジネス戦記である。アメリカの社会と文化、現法のマネジメント（というより率先垂範の営業活動）、東京と出先、など暗くならずがんばり抜いた男の、ユーモアあふれる成功物語でもある。海外に限らず企画や販売にかかわる産業人には大いに参考になると思われる。（純）

③ 人の話に耳を貸さず自分の意見ばかり押し通そうとする人がやたらに目立つ。片田珠美『他人の意見を聞かない人』（角川新書、820円）は前書きでの痛烈な安倍首相批判から始まる。要するに自らのプライドが大事で、黒か白

（純）